

【高知県の現状と産業振興計画について】

皆さんが生まれ育った高知県。(生徒さんの中には) 県外の方からおいでになっている方もいらっしゃるとお聞きしましたが、皆さんのいるこの高知県は、たくさん良いものがあるところです。いろんな日本一が、高知県にはあります。

日照時間全国第1位、降雨量全国第1位、森林面積割合全国第1位。

山に降った雨が、すぐ山を駆け下って行って川に流れていくような、そういう地形で清流が生まれ、そして海が豊かです。だから、山のものも海のものも、非常に食べ物のおいしいところとして、有名なところです。

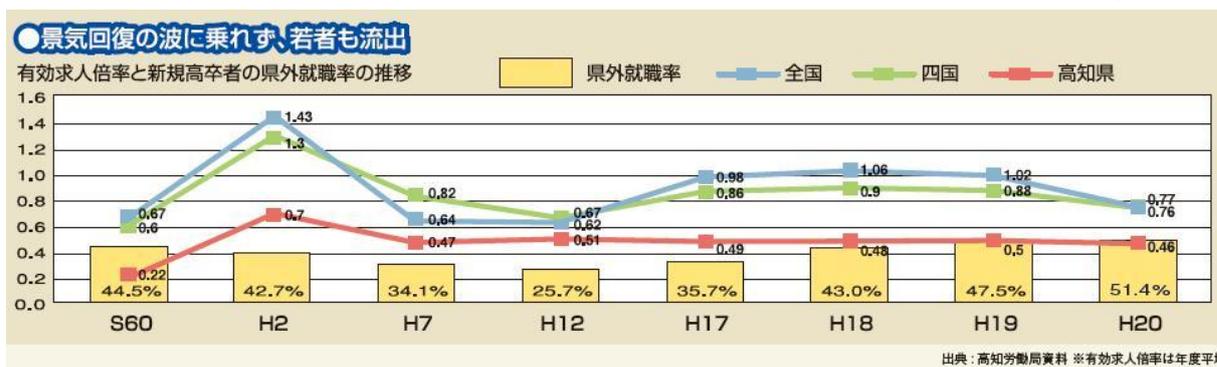
高知県には、客観的なデータがあります。いろんな旅行雑誌の会社のアンケート調査によると、高知県は食べ物のおいしい所、2007年全国第1位、2008年第2位、2009年第2位です。だから、高知県は鰹のタタキをはじめとして、海のものも山のものにしても、おいしい所なのです。

そして、もうひとつは、今、大河ドラマ「龍馬伝」が放送されています。高知県には、幕末維新の時、その後の自由民権の時代、さらには戦国時代にも、日本史の中に誇るべき歴史があります。

全国的にも有名な四万十川を抱えている豊かな自然環境があり、おいしい食べ物があって、そして素晴らしい歴史も持っている。本当に誇るべき県だと思っています。

けれど、その高知県が今、非常に厳しい状況におかれているのもまた確かです。皆さん、高知県産業振興計画というパンフレットの1ページを開けてください。どのように大変かということについて説明します。

1ページの下の折れ線グラフが、有効求人倍率というものについてのグラフです。



仕事を探している人が1人いた時に、その人に対してどれだけ仕事があるかを表すのが有効求人倍率です。有効求人倍率のグラフが1を超えると、1人に対してひとつ以上仕事があるということになるので、非常に景気が良いということになります。でも、それが0.5ということは、1人に対して0.5しか仕事がない。すなわち2人に対してひとつ分の仕事しかないということの意味する。あまり景気がよくない状態ということの意味します。

赤い折れ線グラフが高知県。そして、青い折れ線グラフが全国の数字です。平成12年から平成19年ぐらいまでにかけて、青いグラフのほうは、ぐーっと山が大き

なって良くなっていますが、その間、高知県は全く変わっていないんです。平成12年から平成19年というのは全国でも、ものすごく好景気だった時期なんです。けれど、その間、高知県だけは景気が良くならなかった。そういう状況がずっとここ10年くらい続いています。

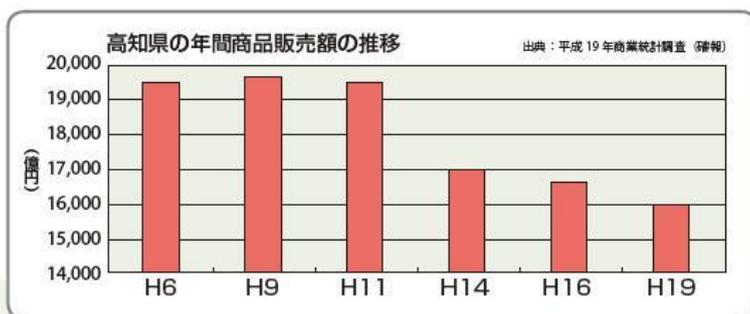
何でそういうことになってしまったのか。いろんな原因があると思いますけれども、最大の理由は人口が減っていて、もうひとつは高齢化が進んでいるからです。

高知県は平成2年から人口が減り始めました。84万人いた人口が、今、77万人を切るぐらいまで人口が減っています。これから、更に8%から10%ぐらい減るだろうと言われてるところです。

人の数が減ると、例えば、それだけ履くズボンの量が減る、スカートが減る。だから、その分、物が売れなくなるんです。まして高齢化が進むと、若い世代が一番お金を使うから、例えば、若い皆さんたちのほうが、おじいちゃんおばあちゃんよりたくさんご飯食べるでしょう。だけど、そういう若い世代の数が減っているのです、その分、物の売れ行きが少なくなっています。

(産業振興計画のパンフレットの)10ページに、高知県の中で、年間どれだけ商品が売れたかということを示しているグラフがあります。平成9年、大体、高知県内で商品は2兆円ぐらい売れていました。今、売られている額は1兆6000万円くらいまで減っています。ピークの2割くらい減っている。こういうかたちで人の数が減ったことと、高齢化が進んだことによって、

●高知県の年間商品販売額は大きく減少



高知県内の経済規模というのは、どんどん、小さくなっている。だから、全国がどんなに好景気でもなかなか高知県は厳しい。商品の売り上げ、商店の売り上げ、スーパーの売り上げ、それもなかなか伸びない。そういう状況がずっと続いているんです。